

平成28年度地域福祉情報交換会意見対応報告

(平成29年10月18日)

各会場からいただいたご意見についての対応を報告いたします。

なお、文中で「秩父市社会福祉協議会」を「社協」、「秩父市」を「市」、「秩父市地域包括支援センター」を「包括」と表記させていただきます。

◆毎週開催している「お茶飲み会」で仕事のある役員は、参加が難しく、鍵開けなどの負担が出てきている。

○地域における活動では、さまざまな方が協力し合いながら進めていくことが大事なことです。地域において負担軽減となる方法もさまざまかと思えます。社協としても地域の皆様と話し合いながら、良い方法を導き出せればと思えますので、ご相談いただければと思えます。

◆「お茶飲み会」の参加者は20人程度いるが、特定の人に参加になってきている。足（送迎等）があれば、もっと参加できるのではないかと。

◆ご近所として私的な事であれば、車に乗せて外出することはできるが、事業となるとそれはできないため、会場までの交通手段がない。解消できるようなものは、ないかと。

○送迎等の問題は、地域の集まりだけではなく、通院時や買い物などさまざまな場面で課題となっています。送迎の必要がない身近な場所での開催も一つの方法ですが、それも困難な地域もありますので、送迎等に関することは、市をはじめ様々な機関と対応を相談させていただき、協議を重ねられればと考えております。

◆「お茶飲み会」に参加するのが「恥ずかしい」という人もいます。声掛けをしてもなかなか参加につながらないようであればよいかと。

○地域の方々が集まることで、家への閉じこもり予防やさまざまな方との交流を図る目的があるかと思えますが、地域における活動に「はずかしい」などの理由から参加されない方が他の地域でもいるようです。参加の呼びかけなど一緒に考えていきたいと思えますので、ご相談いただければと思えます。

◆サロンを実施することで助成金が出ることを知らない人がいるのではないかと。

○包括の地域サロン活動支援事業の補助金や出前講座につきましては、市報に

掲載するなどしております。また社協のサロンにつきましても町会長が集まる会議などで広報させていただいておりますが、更なる周知に努めていきたいと思っております。

◆元気アップ講座が終了した後のフォローはあるのが。

○市におきましても住み慣れた地域で関わりをもちながら集える場所ができる地域の方と共に考え協力・支援していきたいと思っております。社協としても地域の方と一緒に考え、サポートしていきたいと思っております。

◆包括のサロンの助成対象が硬くて何をすればよいかわからないが、対象となる活動はどのようなものか。

○包括のサロンは、高齢者やボランティアが主体となり、おしゃべりしたり、健康づくりや介護予防などにつながる活動をする、地域で気軽に集まれる場所のことです。詳しくは、包括にてお問い合わせください。

◆元気アップと社協、包括で行うサロンの助成金を一緒にすることはできないのか。(来る人にとってもややこしい)

◆「元気アップ」、「社協のサロン」、「包括のサロン」それぞれ支援を受けることはできないか。

○元気アップは、平成28年度で終了しております。社協のサロンは、地域の方々との交流を目的とした開催ですが、今のところどちらか一方の利用となっております。

◆社協支部単位で活動するには、バス利用が必須。支部単位で集まれる案があれば教えてもらいたい。

○支部単位で事業を実施する予定がありましたら車両の貸し出しなどの事業を実施しておりますので、社協にご相談いただければと思います。

◆サロン活動に元気な人へ声をかけても参加してきてくれないので、「どうすれば出てきてもらえるか？」が課題となっている。

○元気な方も参加してもらい、顔の見える関係作りが出来るようご意見をいただき、一緒に考えていきたいと思っております。

◆ご近所付き合いや女性の集まり、農家のつながりが薄くなってきている。

○ご近所付き合いなどの人間関係を再構築することは、今後の地域福祉にとつ

とても重要な事です。その大切さを伝えられるような事業展開等をさまざまな機関と話し合い、地域からも意見をいただきながら市と協力し合いながら進めていきたいと思えます。

◆ふれあいサロンの助成は、今後も続くのか。

○ふれあいサロンは、地域の交流の場として、社協といたしましても重要視しておりますので、今後も続けていく予定です。

- ◆サロン活動を進めたいが、会場がない。
- ◆地区に公会堂がないため、高齢者が集まる場所がない。(個人宅だと「トイレを貸したくない」という理由で難しい。)
- ◆サロン活動で交流する機会を設けたいが、会場などを考えてほしい。
- ◆参加者の利便性を考え、サロン活動を空き家で検討したが、費用がかかるためどうしても公会堂開催になってしまう。
- ◆サロンを町会内の各所で開催できれば良いが、「開催できる会場がない」という問題がある。

○身近な場で集まることがサロンにとって、メリットの一つとされますので、適切な会場選定など地域の方々と共に引き続き考えていければと思えます。

- ◆老人クラブの入会が少なく、単位クラブでの活動が難しい。
- ◆老人クラブの会員は、目的や趣味が同じでないと集まらない。
- ◆60歳過ぎの人は、老人クラブの活動に負担になるからと言って出てこない。老人クラブが、その年代にとって魅力のある活動ができていないのではないか。

○老人クラブの活動は、高齢者の生きがいづくり、介護予防の観点からも重要な役割を担っていると考えております。その重要性などを理解していただき入会につながるよう老人クラブ連合会や市とも協力し推進していきます。

◆会場には、恵まれているが、包括のサロンを毎週行うのは、難しい。

○閉じこもり予防と他者との交流を図るため、サロンには大きな効果があると思えます。包括のサロンは、毎週ではなく月2回以上の開催となっておりますが、サロンの開催につきましては、地域において無理のない範囲で実施していただくことがとても重要です。開催方法につきましては、社協も一緒に考えていければと思えます。

- ◆在宅福祉員で実施する会食会は、男性参加者が少なく、同じ顔ぶれ。
- ◆公会堂を会場にお茶のみで集まったが、女性のみで男性の参加者がいない。
- ◆在宅福祉員が行う、会食会・茶話会に男性の参加がない。

○他の地域でも男性参加者が少ない悩みは、あるようです。地域で活動する在宅福祉員の皆さまとも協議しながら男性にとって魅力のある事業展開できるよう考えていければと思います。

- ◆60歳前後の中間層が事業等に参加してもらえない。

○60歳前後の方々は、年金受給年齢の引き上げなどの事情があると思われませんが、その中でも参加いただける方法は、あると思いますので、参加促進できる方策を一緒に考えていければと思います。

- ◆サロン活動は、なかなか人が集まらず難しい。

○サロンを実施する効果は、少人数でもその効果はあると言われていおりますが、多くの方が参加したくなるようなサロンの運営を社協として一緒に考えていければと思います。

- ◆敬老会の出席率は高く、在宅福祉員にも頑張ってもらっているが、年齢制限もあり、担い手が少なくなっている。
- ◆今後、高齢者が増えることを考え、在宅福祉員の定数を検討してほしい。
- ◆在宅福祉員の連絡員を引き受けてくれる人がいない。
- ◆在宅福祉員の存在や活動内容をもっと知ってもらう必要がある。
- ◆在宅福祉員が見守り対象者よりも高齢になってしまっている。
- ◆在宅福祉員や健康推進員を引き受けてくれる人がなく、人材確保が困難。在宅福祉員の中でも連絡員は、全員やりたがらない。
- ◆定年退職の年齢が65歳になり、在宅福祉員をお願いしてもすぐ70歳になってしまう。
- ◆在宅福祉員の連絡員を断る理由に会議へ出るため、車の運転と地域で配る資料をパソコンで作成する必要があるからだと思う。
- ◆在宅福祉員の見守り対象を70歳以上から75歳以上に引き上げてはどうか。
- ◆在宅福祉員の会議数を減らし、役員の負担を減らす方向で考えてほしい。
- ◆在宅福祉員総会も午前中準備がかかっているため、時間がもったいないという話もある。
- ◆定年退職後も仕事で出ている方も増えているため、在宅福祉員の年齢制限は、撤廃すべきだと思う。

- ◆在宅福祉員があんどん貼りをやっていることに疑問に感じている。
- ◆在宅福祉員が全員勤めているので、連絡員の引き受けてくれる方がいない。重荷なのではないか。
- ◆在宅福祉員の会議は昼間だが、なぜ夜にやらないのか?と以前にも社協に話したことがある。
- ◆在宅福祉員活動の配食サービスでの食中毒対応は、どうするのか。
- ◆70歳以上の人は茶話会などで声がかかるが、65歳～69歳は声がかからない。
- ◆在宅福祉員が行う会食に対象者以外の方と一緒に参加したいと言われ困っている。
- ◆年3回茶話会を在宅福祉員で実施しているが、参加者が多く負担が大きい。
- ◆配食・会食等を行うにあたり、一人暮らしの対象年齢範囲を少し広くできればいい。

○地域福祉活動の中核を担う団体として在宅福祉員の皆様は、日々ご活躍をされているかと思えます。そのような中で、地域で行われる会食会等への参加者に関することや運営自体に関する事など結成から20年以上の年月を経たことによりさまざまな課題が挙がってきております。これらの課題につきまして、在宅福祉員連合会の会議の中で一緒に協議を重ねさせていただき、対応を考えていきたいと思えます。食中毒対応につきましては、配食・会食会・茶話会の事業は、社協が実施主体となっておりますので、社協の責任として対応いたします。

- ◆サロン会場として公会堂を利用するにあたり、国道の横断があるため、安全面に不安がある。また、誰に音頭をとってもらい進めればよいかわからない。

○国道の横断は、交通量の多いところですので、ご指摘のような不安はあるかと思えます。地域の実情に合ったサロンの運営が必要かと思えます。社協としてサロンの運営支援に取り組みたいと考えますので、ご相談いただければと思えます。

- ◆避難訓練の参加が少なく、特に小中学生が出てこないことが気になっている。

○避難訓練等の必要性が小中学生にも理解できるような福祉教育が今後重要であるかと思えます。社協で支援できることがありましたらご相談いただければと思えます。

- ◆情報交換会の対象地域が広いので、地域を細かくした方が問題は、出てくる

と思う。また、今回のメンバーだと高齢者の課題が中心となるため、対象の地域を小さくし、メンバーの年齢層を広くすれば、良い方向へ進むと思う。

○今回いただいたご意見を基に、地域に根付いた活動が出来るよう今後も情報交換会を進めてまいりたいと思いますので、ご協力の程よろしく願いいたします。

◆この情報交換会は、今後も実施するのか。

○今後も実施していく予定です。

◆除雪機が配置されたので、一人暮らしや生活道路の除雪作業を優先して進めてほしい。

◆数年前の雪害時災害ボランティアの話が町会には、なかった。

◆一人暮らし高齢者の家は、ほとんど雪かきができないので、組織的にできないか。

○除雪機の活用につきましては、市や町会での協議が必要かと思えます。また、市では、大雪の場合、地域の方が行う除雪ボランティアに対する助成制度等により支援しています。社協といたしましては、「災害ボランティア事前登録制度」を活用し、登録していただいた方々に協力してもらえよう、登録制度の普及啓発に一層努めるとともに社協支部長の連絡網を作成いたしました。これらを活用し、ネットワーク形成を図りながら、要望に応えられるような活動を進めていきたいと思えます。市では、大雪の場合、地域の方が行う除雪ボランティアに対する助成制度等により支援しています。

◆ふれあいコールは、効果的なのか。

○近所の方を監視するのではなく、さりげなく見守り、何かあった際には、関係機関につなげていく仕組みとしては、効果的であると思えます。全国的に少子高齢化や核家族化によって「ご近所関係」の希薄化が進み大きな課題となっている中、見守り活動や声掛け運動は、地域福祉を推進する上でも主要な事業であると考えられます。

◆地域が広いミニデイやサロンを開いても人集めが大変。老人クラブでも、同じことが起きている

○人集めにつきましては、「はずかしい」などの理由から参加されない方が他の地域でもいるようです。地域の方々が集まることで、家への閉じこもり予防やさまざまな方との交流を図る目的があるかと思えます。参加の呼びかけに

つきましてなど一緒に考えていきたいと思しますので、ご相談いただければと思います。

また、老人クラブに関しましては、高齢者の生きがいづくり、介護予防の観点からも重要な役割を担っていると考えております。その重要性などを理解していただき入会につながるよう老人クラブ連合会や市とも協力し推進していきます。

- ◆ミニデイを年4回開催しているが、参加者がだいたい同じ顔になっている。
- ◆ミニデイに男性の参加が少ない。
- ◆少子高齢化の影響でハイキングの参加者が減ってきている。
- ◆ふるさとづくりで課題となるのが、後継者の育成で、どのように人口を増やしていくかが大事。
- ◆高齢者がどのようにすれば、事業に参加してもらえるかが課題。
- ◆高齢者が気軽に集まれる場所づくりをしたい。
- ◆町会役員を定年退職した人に頼んでも「まだ働ける」と言われてしまい、参加してもらえない。
- ◆在宅福祉員をはじめ、町会の役員を引き受けてくれる人が少なくなっている。
- ◆共働き世帯も増え、孫の子守りを頼まれる人もいることが役員の担い手不足の理由に感じる。
- ◆役員を引き受けてくれる人がいないため、仕方なく複数の役を担っている。
- ◆通学路の横断歩道などこちらから要望する前に市が気づいた時点でやってほしい。
- ◆社協から在宅福祉員への動員が多い。
- ◆受け手ばかり増えるのでは、システムが成り立たなくなる。高齢でも健康であれば、ボランティアはできる。社協としてボランティアのPRもっとすべき。
- ◆町会役員をやっている人はいつまでもやり、やらない人は一切関わらない。
- ◆独居の高齢者は、子どもがみんな秩父に仕事がなくて出てしまっていることが原因。
- ◆高齢者でも元気な人が支える地域づくりをしていかなければならない。
- ◆元気な高齢者に活躍してもらいたいと思っている。

○必要に応じて、社協としても市と相談し、地域の方と一緒に考えていきたいと思しますので、ご相談ください。

- ◆地区のトイレで1カ所古くて水洗トイレがない。

○町会又は区等の集会所等を整備しようとする場合、市で補助する制度があり

ます。町会長を通して市にご相談していただければと思います。

◆坂が多く、遠い人が会場まで来ることができないため、会場の選択が課題。

○会場の持ち回りなどを検討していただくということも方法として、あるかと思いますが、交通手段の確保という視点になります。社協支部単位で事業を実施する予定がありましたら社協で車両の貸し出し事業もありますので、ご相談ください。

◆パソコンなどの事務は、今後社協に協力してほしい。

○地域における人材発掘も社協として支援していかなければならないと考えております。その点につきましてご支援できることがありましたらご相談ください。

◆社協会費の集め方をもう少し工夫してほしい。

◆歳末援護金の訪問がストレスだったので、社協から振込できないのか。

○なるべく負担にならない方法を検討したいと思います。

◆ペタンクやグランドゴルフ大会やサロン開催で福祉活動交付金を使いたいが、10月以降でないと使えない部分がある。その前に使えないか。

○「福祉活動交付金」の使用は、以下のとおりとなっておりますので、ご理解ください。よろしくお願いいたします。

「社協会費」が財源・・・・・・・・・・年間を通して使用可能

「歳末たすけあい募金配分金」が財源・・・10月から3月

◆包括支援センターの支援で開催した企画（サロン）が継続できなかった。

○餃子づくりは、住民の方が集まる機会としての支援だったかと思われます。高齢になっても何らかの役割があること、得意な事やできることを続けていただくことが、元気高齢者が増えていくことにつながると考えますので、サロンの運営支援に取り組みたいと考えますので、ご相談いただければと思います。

◆平均寿命と健康寿命の違いは何か。また、年齢の算出方法は。

○平均寿命とは、生まれたときに死因に関係なく、その人が何歳まで生きることができるかを平均値にしたものです。平均寿命の計算法は、各年齢の年間死亡率を求め、今年生まれた人口がこの死亡率に従って毎年どれだけ死亡するかを求めるという予測を立て、それぞれの死亡した年齢を平均したものが平均

寿命として算出されます。つまり、「平均寿命」とは、それぞれの年に生まれた赤子が、今後何年生きられるかという期待値を含んだ数値です。

健康寿命とは、日常的・継続的な医療・介護に依存しないで、自分の心身で生命を維持し、自立した生活ができる生存期間のことです。健康寿命の計算法は、厚生労働省で行う「国民生活基礎調査」と生命表（人口統計学の分野においては年齢別・男女別などに類別し、それぞれの年齢別・性別に次の誕生日までの間の生存率・死亡率および平均余命などを示した表）を基礎情報とし、サリバ法（広く用いられている健康寿命の計算法）を用いて算出されます。

出典：ウィキペディア，強健ラボ（<http://maron49.com/>），厚生労働科学研究「健康寿命のページ」（<http://toukei.umin.jp/kenkoujyumyou/>）

◆アトラクションや講師のレパートリーを社協で開発して増やしてほしい。

○引き続き地域で活躍できる人材発掘やプログラム作りに努めてまいりたいと思います。

◆「社協支部」というが、よくわからない。

○すべての町会に社協支部を設置していただくようお願いしており、場所によっては複数の町会で一つの支部を形成したり、また大滝においては、町会が広いので、4つの支部に分けていただいているところもあります。支部長についても町会長が兼務しているところもあれば、別に立てているところもあり、さまざまです。支部の活動は、社協会費や歳末たすけあい募金を財源とした福祉活動交付金を用いてさまざまな福祉活動を実施していただいております。在宅福祉員の推薦も支部長が行います。

◆社協のことを知っている人は、ほとんどいないのではないかと。

◆社協が成年後見人となって、活動しているのか。

◆寿敬老写真は、今後も実施するのか。お金がかかると聞いたので、限られた財源を有効活用するには、廃止にして他の事業に流用できるのではないかと。

◆社協は、どんなことをしてくれるのか。

○「第3期秩父市地域福祉計画・地域福祉活動計画」策定にあたり行った市民対象のアンケートにおいても社協の認知度が低い結果であったため、認知度を上げるための方策を社協として検討してまいりたいと思います。成年後見人に関しましては、秩父市民を対象として、社協で成年後見人等の受任を行っております。また、寿敬老写真は、85歳になられた方の長寿を祝い写真を贈呈させていただき事業で、対象者やそのご家族から大変喜ばれております。社協として今後も継続して、写真贈呈を行いたいと考えておりますので事業を

廃止の予定は、ありません。そして、社協は、地域に出向き、皆さんの話を聞かせていただきながら、地域ごとに異なる課題をそこに住む皆さんと共に考えていき、解決していけるような支援をしていきたいと思ひます。

◆50億円の介護保険料を市が負担しているのか。

○国の助成もあるが、市として50億円前後の負担をしています。

◆高齢者の認知症対策への取り組みは？

○包括と協力して取り組んでいる。福祉教育といった面で認知症サポーター養成講座の開催を地域や小中学校で行っています。その他、1市4町合同で「認知症初期集中支援チーム」が立ち上がっております。秩父地域では、認知症対応が後手に回りがちなので、早期の受診とケアをしていくことを主としています。

◆免許更新時の認知症検査が関係機関等で活用できるよう検討も必要。

○認知症の早期発見・支援に対して有効な手段だと思われるので、関係機関と協議しながら検討していきたいと思ひます。

◆老人クラブの活動がマンネリ化してきている。

○活動内容について老人クラブ連合会や市と協議の場を設けられるよう努めていきたいと思ひます。

◆町会に緑の羽根は、届くが、赤い羽根が届かないのは、どうしてか。

◆赤い羽根の関係で町会、支部、民生委員が行う募金を整理できないか。

○社協では、赤い羽根の募金を実施しており、緑の羽根の募金は実施していません。赤い羽根については、事前に町会へ案内し、必要物品を用意しておりますが、その中で、「赤い羽根が必要かどうか」という確認をさせていただいております。また、募金の整理につきましては、赤い羽根募金の組織として「全国」、「埼玉県」とあり、その下に「秩父支会」が存在します。募金の方法が数種類あり、種類ごとに協力依頼する機関が決まっています。例えば、「戸別募金」は、町会などの自治会等をお願いします。また大口募金につきましては、民生委員をお願いすることとなっております。また、町会や民生委員が集めていただいた募金額を基に町会や民生委員に社協から交付させていただいている助成金の金額を決めております。

◆民生委員は、任命されると社協の中で仕事をするのか。

○民生委員は、「社会奉仕の精神をもって、常に住民の立場に立って相談に応じ、及び必要な援助を行い、社会福祉の増進に努めるものとする」ことを目的として、地域に根ざした活動をする方々だと思えます。また、社協は、「地域福祉を推進する団体」として存在します。民生委員と社協は、共に地域を対象とした活動することとなっておりますので、お互いに手を取り合いながら、地域福祉の推進が行えればと考えております。

◆今まで実施した地域情報交換会で出た意見について何か出す予定はあるのか。

○「平成28年度秩父市社会福祉協議会地域情報交換会概要」としてまとめました。

◆大雪で自分も家から出られない状況の中、民生委員や在宅福祉員には安全確認をしてくれとの依頼があり、理解できなかった。

○災害時の安否確認に際して、まずは自分自身の身の安全を確保していただくことが、第一条件であると思えます。そのあと他の安全確認をしていただくことになるかと思われませんが、その方策につきまして、地域の関係者からもご意見をいただき、検討していきたいと思えます。

◆地域福祉を行うのは、社協なのか。役所の中にも地域福祉を行う部署があるのか。

○社協は、「地域福祉を推進する団体」として社会福祉法第109条に規定されております。社協は、地域住民からの会費、赤い羽根共同募金配分金、歳末たすけあい募金配分金を主な財源にして事業展開しております。人件費は、市からの補助金で賄われておりますが、窓口は社会福祉課となっております。地域の皆さんがその地域の中で安心して自立した生活を送るために、個人や家族でできること（自助）、市が行うこと（公助）、個人・地域・団体・企業・市・社協が連携して支え合っていくこと（互助・共助）の3つが必要です。今後も地域福祉の推進にご協力お願いいたします。

◆福祉女性会館調理室の備品（炊飯器、ポット、包丁など）を購入してもらいたい。

○炊飯器につきましては、二合炊きの電気炊飯器を2台在宅福祉員で所有しているため、必要な時は、ご相談ください。また、その他の備品につきましては、

市において状況確認を行い、その結果、当面使用に耐えるものであると確認していただきました。「福祉女性会館の運営費は、限られた予算の中で何とかやりくりをしている状況であることからご不便をおかけしますが、現在ご使用いただいている備品が使用できる間は、こちらをご使用いただきますようよろしくお願い申し上げます。」とのことですので、ご理解いただけると幸いです。

◆社協の地域交流会は、大変好評だったので今後もお願いしたい。

○地域交流会事業は、引き続き実施していきたいと思えます。

◆羊山センターの改修等の構想はあるのか。

○収益事業としてギリギリの状態であるため、設備投資する財源がありません。大部分が老朽化しており、設備の維持も厳しい状況でもあります。秩父市からの委託事業でもあるので、市とも検討を重ねているところです。市で羊山センター事業の必要性を検討し、財源を確保してくれればよいが、それも難しい状況です。現状では、今の状態を維持していくことしかできません。

◆社協から出ている助成金は、今後増える予定はあるのか。

○地域の課題解決に向けて必要であれば、検討していきたいと思えます。

◆在宅福祉員や民生委員、健康推進員を見つけるのが一番苦労する。

○地域の実情をよく知り、福祉活動やボランティア活動などに理解と熱意のある方を選出していただくことは、大変なことと承知しております。地域の中で安心して自立した生活を送るためには、地域の方の力が必要となりますので、今後ともご理解をお願いします。

◆主任児童委員や民生委員のことを知らない若い人が多い。

○日頃支援していただく対象者が、高齢者や障がいのある方など問題を抱えている方が多いかと思えますので、まだ支援を必要としない元気な若い方が知らずにいることもあるかと思えますが、重要な役割であると理解しております。「あいさつ運動」や「小学校の子ども達との交流」などでも活動いただいておりますので、徐々に周知されていくものと考えております。

◆子ども食堂をやりたい希望はあるが、どう進めていけば良いかわからない。

○社協といたしましても「子ども食堂」実施に向けての支援をしていきたいと思えます。

いますので、ご相談いただければと思います。

◆秩父市は自然に恵まれて都会にも近いのに消滅都市と言われている。

○2014年に民間研究機関「日本創成会議」が発表したレポートの中で、896市区町村（全国の自治体のおよそ半数）が「消滅可能性都市」とされ、残念ながら秩父市もその中に含まれていました。このレポートにおいては、2010年からの30年間で「20～39歳の女性人口」が5割以下に減少する市区町村を「消滅可能性都市」とし、少子化と人口流出が止まらない地方の現状に警鐘を鳴らしています。市では、子育て・教育環境の充実や産業の振興などを図るとともに、都会に近いながらも自然に恵まれた環境を生かした「人を呼び込む施策（移住・定住）」にも取り組むことで、将来にわたって持続可能な都市であり続けるよう全力を尽くしているとのことですので、社協も一緒に考えたいと思いますので、ご相談ください。

◆高齢者のことだけでなく、若い人が住みやすい街にしていけないといけない。

○市では、「住んでみたい秩父市、産んでみたい秩父市、住み続けたい秩父市」の実現に向け、子育て・教育環境の充実、地域医療体制の強化、産業の振興と雇用の充実など、多世代の方にとって住みやすいまちづくりに取り組んでいるとのことですので、社協としても必要に応じて、地域の方と一緒に考えていきたいと思いますので、ご相談ください。

◆民生委員活動の中で集まりに参加できない高齢者宅に訪問しても会えず負担に感じる。

○いつも高齢者宅などの見守り活動をしていただいていることは、地域の方にとっては、とても安心なことかと思えます。社協として一緒に考えたいと思いますので、ご相談ください。

◆高齢者同士で支え合う仕組みづくりが必要で更に高齢化が進むと若者が苦しむ。

○市では高齢者が住み慣れた地域でいつまでも生活できるように地域包括ケアシステムを推進しておりますので、社協としても必要に応じて地域の方と一緒に考えていきたいと思いますので、ご相談ください。

◆高齢者と若者が支え合う双方向の関係を築いた方がいいと思う。

◆高齢者に配食で食べさせるのではなく、若者が支え合う双方向の関係を築いた方がよいと思う。

○市と相談しながら多世代で支え合える地域づくりを研究していきます。

◆個人情報保護法があり、町会の人や高齢者の情報が非常にわかりづらい。

◆個人情報のことを考えてほしい。

○入退院や施設入所などにつきましては、個人情報であるため、本人の承諾がなければお話しすることはできません。社協や市にご相談いただければ、解決できることもあると思いますので、ご相談ください。

◆防災を地域で行う話があるが、市が町会にフォローする必要があると思う。

○社協として地域の方と一緒にできることを考えていきたいと思っておりますのでご相談ください。

◆社協だよりを毎回読んでいるが、字が細かすぎる。

○平成29年7月号より、可能な限り字体を大きくし、横書きにしております。

◆両隣の人に聞けば、一人暮らし高齢者のことがわかるシステム作りがあればいい。

○市・町会と協力しながら「ふれあいコール」事業として高齢者世帯等を対象に地域での見守り活動に取り組んでおります。その他必要なことがありましたら地域の方と一緒に考えていきたいと思っておりますので、ご相談ください。

◆老いていく中でどういう方向で終焉を迎えるかの道を決めることに困る人が出てくるのではないかと。

◆高齢化が進む中、元気な高齢者で生活してもらいたい。

○保留